



酒造場が国の登録文化財になっている城間町の梅ヶ枝酒造は、近年まで北松浦郡の小値賀杜氏が来ていました。小値賀島には明治五(一八七二)年ごろ五軒の酒造場があり、六百石余(約十二万石)を生産していました。その後、柳、六島といった地区から県内や佐賀、福岡方面へ出掛けていました。早岐の枝村である広田村の杜氏についての記録はありません。

冬は三カ月は日本酒づくりの最盛期。芳醇な香りと味わいの日本酒は、まさに日本の風土が生み出した味覚文化の粋。その日本酒づくりの総支配をするのが杜氏です。

早岐二丁目の浄漸寺奥の院参道の一角にある、稲荷大明神へ寄進された石燈籠の一つに「文政六(一八二三)年(癸未(みずのとひつじ)) 広田村酒頭司 長五郎」と書かれています。酒頭司は杜氏でしょう。

酒頭司の石燈籠(早岐二丁目)

歴史散歩



第511回

早岐瀬戸に面した干潟を干拓し、大手原に塩田、小森川河口から住吉神社にかけて宮崎新田が営まれ、平戸藩内でも有数の稲作地帯となりました。ただ、水田耕作は冬が農閑期となり、養蚕などの副業で補うのが慣例で、その一つの姿が出稼ぎでした。杜氏の仕事はいつしか集団作業の専門職として、地名を冠した「〇〇杜氏」と呼ばれるようになったのです。広田杜氏が働いたのは、江戸時代、平戸藩本陣があった早岐の酒蔵だと思われれます。

稲荷大明神に石燈籠を寄進した長五郎は、酒頭司という表記からみて、酒造りの集団を率いる頭領格の人です。その杜氏のもと、麴師、配師の三役、下働きの室子などが集団をつくり、それぞれ修行を積んで上役に昇進していくのです。

一对の燈籠の片方には「針尾島 天羽吉太良」とあり、天羽氏は今も子孫が指方一円に住んでいます。酒造との関わりは不明です。筒井隆義



SASEBO

編集後記

地球上には、約14億km³の水があり、そのうち97%が海水で、残りの3%が淡水だといわれています。しかし、その淡水のほとんどが南極や北極の雪や氷で、地下水を含めて河川や湖沼として存在する「使える水」は、地球上の水のわずか0.8%にしか過ぎないそうです。

給水時間に合わせた生活を強いられた平成6~7年の長期間にわたった大渇水。給水制限の解除後は「蛇口をひねるといつでも水が出るなんて素晴らしい。水は貴重だ」などと思いましたが、今回の渇水で、あのかのときの気持ちをすっかり忘れ、ここ数年、筆舌に尽くし難い水の使い方をしてきたことに気がきました。(T)



元気な朝ごはんレシピ あっさり卵リゾット



材料・4人分

ごはん	600g
大根	1/5本(160g)
マッシュルーム(スライス)	1缶(50g)
ベーコン	3枚
コンソメ	2個
水	500cc
卵	3個
小ねぎ	3本(9g)

作り方

- ①大根は千切りにし、マッシュルームと、食べやすい大きさに切ったベーコン、コンソメ、水を鍋に入れ、煮る。
- ②大根が煮えたら火を止め、溶き卵を入れ、混ぜる。
- ③皿にごはんを入れ、②をかけ、小口切りにした小ねぎを盛り付けて完成!

1人分の栄養価▶熱量 370kcal、たんぱく質10.6g、脂質8.9g、塩分1.6g

ポイント▶短時間で簡単にできます。あっさりしているので、朝、食欲がない人も食べやすく、消化に良い献立です。

考えていただいた人

= 福野利恵さん、福山祐美さん、宝亀絵理さん、松崎凜子さん、迎令奈さん(以上、佐世保北中学校3年生) / 平成19年度ヘルシークッキングコンテスト・学生部門優秀賞

市長日記

市民第一主義

私は市長就任以来、「市民第一主義」を掲げて市政を運営し、市職員にも常にその意識を持って行動してほしいと訴えてきました。それから9カ月、「市民第一主義の考え方が少しずつ定着してきているのではないかと市民の皆さんから度々お話をいただくようになり、大変嬉しく思っています。

昨年11月、この市民第一主義の一環として、市役所窓口のさらなるサービス向上を目指し、来庁者アンケート調査を実施しました。約3,800人の市民の皆さんに、10項目の設問を5点満点で評価していただき、また、市職員約1,500人にも同様に自己評価をしてもらいました。その結果、市民の皆さんの平均点(総合評価)は4.25点、市職員の平均点は3.46点という報告を受けました。私は、

市民の皆さんの窓口サービスに対する評価が大変高いことに驚きました。

しかし、アンケートの一部には、特定の部署や職員に対して、大変厳しいご指摘があったことも事実です。これを真摯に受け止め、的確に指導・改善し、市民の皆さんの満足度をさらに向上させていきたいと思っています。

このアンケート調査は、今後も定期的の実施し、改革改善などの貴重な資料として活用していきたいと考えていますので、市民の皆さんには、今後とも厳しいご指導と温かいご支援をいただきますようお願いいたします。

佐世保市長 朝長 則男

情報クリップ



ノーマイカーデーの取り組み

本市では、12月の「地球温暖化防止月間」に合わせ、市職員が自家用車などを自粛し、バスや徒歩で通勤する「ノーマイカーデー」の取り組みを12月21日に実施しました。朝長市長は、これに先駆け、同月20日、自宅から市役所までの約2キロを歩いて登庁しました。歩くことが好きな市長は、到着後も爽やかな笑顔で、「わたしたちの環境を守っていくためには、一人一人がさらに意識を高めていくことが必要です。できることから取り組みましょう」と市民の皆さんに呼びかけました。

本市で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスは、1日平均3,885トン。京都議定書では、1990年を基準年として6%の削減目標が設定されましたが、本市では逆に増加傾向となっています。本紙昨年12月号(裏表紙)を参考に、1人・1日・1kgの削減を目指しましょう!

旭山動物園長が来園

12月23日、独自の展示方法などで全国的に注目を浴びている旭川市旭山動物園(北海道)の小菅(こすげ)正夫園長が、市垂熱帯動植物園を訪れました。

同園長は園内を視察後、朝長市長と対談し、動物園改革で「旭山オリジナル」を目指したこと、従来休業していた冬場に営業したところ「美しさと意外さ」で好評を得、それが改革のきっかけとなったことなど、これまでの経緯を紹介しました。また、今後の佐世保の動植物園づくりに期待を込め、「佐世保は美しい自然に囲まれ、動物園に対する市民の思いも強い。これらをうまく結びつけられれば、必ずほかにはない素晴らしい園になるでしょう」と話しました。

